

事後モニタリング

完成した事業の有効性、インパクト、持続性について検証するため「事後モニタリング」を実施しました。

事後モニタリングの意義・概要

事後モニタリングは、完成後7年を経過した事業について、有効性やインパクトは発現し続けているか、さらに実施機関の技術・体制・財務や施設等の運営・管理の現状に基づき持続性に問題はないか、事後評価時

の教訓および提言への対応状況はどうなっているのか等を検証するために行うものです。2004年度は4事業を対象に試行的に行い、開発途上国主導の開発成果の持続的発現に向けた取組みを促進しています。

結果一覧

国名	事業名	評価結果
インドネシア	科学技術振興プログラム	派遣された留学生の高等教育資格保有者数は事後評価時とほぼ変わらず、帰国留学生による調査・研究活動等も活発である。また後続事業（「高等人材開発事業」）も実施されている。
タイ	サタヒップ・マブタブット鉄道建設事業	貨物輸送量は事後評価時に比して2.2倍（92.5万トン/年）になったものの、計画値の23%にとどまっている。輸送量増加のためには本線区間以北（バンコク方面行等）での鉄道輸送能力向上が必要であり、現在複線化が計画されている。
	マブタブット・サタヒップ送水管建設事業	送水量は事後評価時の3.3倍（730万トン/年）となり、事業の有効性は向上しつつある。建設中の新浄水場からの水供給に伴い、今後数年で計画値（1,400万トン/年）に達する見込みである。
インド	ベイスン・ブリッジ火力発電所建設事業	事後評価時は、ほぼ計画通りの発電量（165GWh/年）であったが、燃料のナフサ価格高騰により、2004年には44GWh/年まで減少。本発電所は、その運転特性（開始から15分で最高出力に達する）から、ピーク時および緊急需要時の発電に不可欠な施設であるが、稼働率を高めるためには、燃料をナフサに比べて安い天然ガスに転換することが必要である。（※現在インド政府はガスパイプライン建設を計画中。）

外部評価者

外部評価者（評価委託先）	略歴
金澤 忠幸 （オーバーシーズ・プロジェクト・マネジメント・コンサルタンツ(株)）	金沢大学工学部および愛知県立大学外国語学部卒業。アジア開発銀行を経て、2004年よりオーバーシーズ・プロジェクト・マネジメント・コンサルタンツ（株）顧問。専門はプロジェクト管理、上下水道、都市衛生、道路、都市計画等。
関口 広隆 （オーバーシーズ・プロジェクト・マネジメント・コンサルタンツ(株)）	法政大学大学院博士課程修了。2005年より現職。専門は開発協力事業評価、NGO・NPOを通じた社会開発、ノンフォーマル教育等。

※50音順、敬称略



サタヒップ・マブタブット鉄道

フィードバック・セミナーの様様

中間レビューのフィードバック・セミナーは、ベトナムでは2005年8月に、フィリピンでは05年9月にそれぞれ開催されました。ベトナムでは現在、計画官庁や実施機関によって評価の活用が重視されつつあり、セミナーにおいては、橋梁事業のインパクト指標として何を設定したら良いかなど、積極的な議論が行われました。またフィリピンでは、政府諸機関で開発成果マネジメントが試みられており、事後評価をどのように充実させるかについての討議が行われました。



フィリピンでのフィードバック・セミナー